令和４年度 山梨県立白根高等学校

第１回 学校運営協議会 議事録

日時：令和４年４月２１日（木）１５：３０～１６：５５ 本校白朋館ホール

１　開会のことば（教頭）

２　校長あいさつ

１月末から分散登校が続き、４月、新年度になったところでやっと全員そろって登校できるようになりました。部活動も同様の状況です。生徒の元気がなくなるのではないかと心配していましたが、想像していたよりは元気に登校してきてくれたので安心しています。また、春の大会より、野球部が単独で試合に参加できるようになったことも大きな成果です。１年生は１１人が登録したので、３年生が引退してからもチームが組める状況となりました。今年度の総体については、開会式・閉会式はありませんが、競技はほぼ例年通り開催されます。一般生徒の応援を許可する競技は少ないようですが、本校は第２グラウンドで行われるホッケーの応援に行きたいと考えています。

４月頭から全員がそろって登校できるようになり、昼食時のみ分散という状況です。窮屈感はまだ残っていますが、生徒は概ね元気に過ごせています。本日は授業参観をしていただきましたが、またご意見などいただきたいと思います。

本校は、昨年からコミュニティスクールとして始動しました。地域から多くの支援をいただき、またロータリークラブからの御芳志（モニター）もいただきました。昨年はコロナの影響でコミュニティスクールとしての活動がなかなかできませんでした。桃源郷マラソンも見送られるなど、今年度についても見通しが立たない状況が続いておりますが、できる限り地域と連携した活動を推進していきたいと考えています。

今年度、学校運営協議会は４回実施の予定です。今年度もご協力をお願いいたします。

３　委員自己紹介

４　役員選出

会長：川野委員 副会長：金丸委員　議長は川野会長

＜議事＞

①学校運営協議会 規約の確認（資料Ｐ２～Ｐ９参照）　→承認

②本校の現状と課題について（学校側説明）

１　学習支援グループ（資料Ｐ１０参照）

１　本年度入学生の出身中学校について

２　高校入試の成績状況

高校入試の成績については、（全県的な傾向かもしれないが）例年よりも平均点が低くなってしまった。

２　生徒支援グループ（資料Ｐ１０～１１参照）

１　生徒会関連行事

２　部活動実績

３　支援を要する生徒とその対応

支援を要する生徒については、スクールカウンセラーを設置して対応

３　進路支援グループ（資料Ｐ１１～１２参照）

１　進路基本方針

２　卒業生進路概況

「総合的な探究の時間」について、昨年度はエナジードに取り組んでいたが、今年度は地域学習を取り入れたものにしていく方針。

4　学校管理グループ（資料Ｐ１３参照）

1　就学支援金、就学給付金受給者について

2　学校施設・設備の改善について

3　PTA 活動及び地域との連携

4　令和３年度 PTA 事業

就学給付金は例年になく多くの申請があった（コロナの影響か）
PTA 活動については、コロナの影響により、恒例の白根祭おやじやきそばができなかったのが残念。

5　生徒指導グループ（資料Ｐ１４参照）

生徒指導の状況については、交通事故が多かったとの報告を受けている。今年度は年末の交通安全県民運動の指定校となっている。また、９月の防災の日前後に地区の防災会との合同避難訓練を予定。

6　情報管理グループ（資料Ｐ１４参照）

年に２回中学校訪問を実施。昨年度は学校説明会・オープンスクールは中止となったものの、スクールツアーはなんとか開催できた。HP は頻繁に更新しているので、ぜひご覧いただきたい。

（A 委員）VF 甲府ユース所属の新入生は何人か。また、生徒の男女比はどうか。
→VF 所属の１年生は、県内出身者のみ６人。
男女比については、２年がやや女子が多いが、１・３年生はほぼ１：１。
（１年生 男６２ 女６８ ２年生 男５１ 女７３ ３年生 男６６ 女６１）

③令和４年度学校評議員学校評価について（学校側説明）（資料Ｐ１５～１６参照）

・資料のような形で、最終的に県に報告する。委員の先生方には、最後の協議会でご意見をいただき、それをまとめる。昨年度は大変良い評価をいただいた。
・今年度の実践計画についてはＰ１７～２０参照。
・スクール・ミッション、スクール・ポリシーについてはＰ２１参照
・本校重点目標は資料Ｐ２２参照・昨年度、目標を達成するための方策の部分が曖昧だったので、今年度はより具体化した方策について掲載している。

④令和４年度学校運営方針・学校指導重点目標について

（校長）スクール・ミッション及びスクール・ポリシーについて、昨年度委員の皆様から同意をいただいた。教育重点目標については、今年度も大きく変えたところはない。ただ、昨年度 ICT 教育に対する評価が低かったこともあり、重点項目に加えた。新課程元年であり、 BYOD を持って１年生は授業に臨むこともあり、PC を活用できる生徒を育てなければならないと感じている。教師側も努力しつつ、新課程にのっとった生徒を育てたい。

３年生はコロナの影響が最も大きかった学年。入学式も、新入生研修会もできなかった。こうした３年生のため、という意味もあり、今年度は極力行事を実施したいというのが校長としての思いである。

（B 委員）本来、評価者として最も大切なのは生徒ではないかと思う。同じ評価の項目について、先生方の感じ方、生徒の感じ方がそれぞれあると思うので、それらを分かりやすくできると良いのではないか。生徒ファーストの視点から、生徒から「良かった」という評価が得られるようになると良いのではないか。

（教頭）学校の重点目標と県の重点目標は、リンクをしている。報告書については県下統一となっている。

（校長）アンケートの項目も、昔はほぼ統一のものだったが、今は学校の独自性を出せるようになっている。生徒のものと教員のものと、呼応させればわかりやすくなるかと思うので、検討したい。

（教頭）学校評価委員会を年５，６回実施している。その中でアンケート項目についても検討している。昨年度の結果は最終のものしか載せていないが、例年生徒のものも載せている。

（C 委員）「具体的な方策」に対して、できた・できなかったの評価をすれば良いのか？１回でも行えば、「おこなった」でよいのか。あるいは、「いつもおこなっている」ことが重要なのか。何を指標に評価すべきなのか。

（校長）赤字の部分について、「今年はこれをやりたい」と踏み込んだ内容の掲載を主任にお願いした。何かご意見がいただけたらありがたい。
（会長）年４回ほどの来校で、評価をするのは難しい。学校から、定期的に報告などがあればありがたい。

（教頭）学校での活動については、できるだけ HP をご覧いただければと思う。

（校長）極力、学校行事などの折に委員の皆様に声掛けをしていくので、ご来校をお願いします。

議事③④ → 承認

⑤意見交換・懇談

（C 委員）コミュニティスクールの活動が、市の産業観光部とタイアップできると良い。また選挙の時には本校も期日前投票所を開いたが、市議会の傍聴なども可能なので、いろいろな場面で協力をしたい。

（D 委員）スクール・ミッション＝白根の存在価値は、地元で活躍できる人材育成とのことだが、実際に地域で活躍している卒業生等を学校案内等に載せてみてはどうか。

（校長）新年度のものは現在作成中。今年のものに間に合わせられるかわからないが、ご意見参考にします。

（A 委員）同窓会の HP「卒業生の今」欄の人数も増やしたいと考えている。

（E 委員）中北ドットコムという情報誌を作成しているが、白根高のコミュニティ・スクールとしての活動を取り上げていきたい。

（教頭）昨年度はこの会議のことやインターンシップ報告会なども掲載していただいた。

（F 委員）一昨年、私が〇〇中で進路担当をしていた頃、白根高校の挨拶が県下一だということを感じた。学校案内や通信など各学校のいろいろなものがまわってくるなかで、パッとみて「すごい」と感じるものもあれば、「ふつう」と感じるものも正直ある。パッと見て、手に取ってもらえるようなデザインの検討を。

教科書を選ぶ際も、開いたときの「夢がある」感じが大事だと思う。

評価項目にしても、少なくすればそれだけやるべきことが明確になる。本校に実際に来てもらって中身を見てもらえば、とても良い学校だということがわかる。中学生に興味を持ってもらえるような働きかけを。

5　諸連絡 今後の予定（資料Ｐ１参照）

学園祭をぜひ見に来ていただきたい。その翌週、第２回の協議会を実施したい。

（校長）本日 FM Fuji で、ウェイトリフティング部の望月君のインタビューを放送します。あとでユーチューブでも聞くことができるので、よろしければご視聴ください。

6　閉会のことば（教頭）

令和４年度 山梨県立白根高等学校

第２回 学校運営協議会 議事録

日時：令和４年６月３０日（木）１５：３０～１６：４０　本校白朋館ホール

１　開会のことば（教頭）

・委員２名が欠席
・配布資料確認

２　校長あいさつ

新型コロナの感染者も徐々に落ち着いてきました。本校でも、体育の時間や登校時は、マスクを外すようになってきています。昼食に関しても、先週までは教室を分けていましたがが、今週から黙食を徹底したうえで全員が教室に戻りました。また、今週から教室に空気清浄機、体育館に巨大冷風機が設置されました。

４月以降の教育活動について。５月の高校総体で、ウエイトリフティング部が創部から初めての団体優勝、３選手が大会新記録を出しました。また、３年生の４名全員がインターハイへ出場することも決定しています。インハイ予選ではバレー男子が久しぶりにベスト４へ入ることができました。また、先週白根祭を実施しましたが、ご来場いただいた委員様はありがとうございました。ご来場いただけなかった委員様も、CATV の放送をご覧ください。１年生は久しぶりの合唱、２年生はダンス、３年生は舞台発表でした。特に３年生の完成度が高く後輩の見本となりました。１日目の３年生の発表時のみ、観客として３年保護者を入れました。オヤジ焼きそばも３年ぶりに復活でき、みんなの笑顔が印象的でした。

今後の学校行事等について。来週第２回定期試験を実施します。その直後の週末、７月１０日（日）８時半から、野球部の夏の大会があります。対戦相手は山梨学院高校です。昨日参議院選の期日前投票をこの場所で実施しました。川野さん、金丸さんにもお越しいただきました。またロータリークラブの協力のもと、６月１日、奉仕部がオンラインでわかば支援学校と交流会を行いました。さらに、南アルプス市の支援をいただきながら、１年生の総探の学習を進めています。

３　＜議事＞ 議長：川野会長

① 学校運営協議会 規約の確認（資料Ｐ１～Ｐ８参照）

第１回で会の規約については一度確認しているところですが、「部会の設置」について再確認したい。

資料 P1～は県の規定。Ｐ２の第９条について、「部会を置くことができる」とされている。 P10 にあげた年度末に県に提出する報告書には「部会の取組状況」という欄がある。令和２年度の身延高校の報告書では、部会の欄のところは「報告なし」との記載で、空欄で提出されていた。本校では、Ｐ１４の形で報告した。

今後も部会は設置しなくて良いのか、委員の皆様の意見を伺いたい。もし２つの部会を設置するのであれば、本校の学校運営協議会の規約変更が必要となる。また、部会構成員は、学校設置部会、学校評価部会ともに委員以外の方に参加していただくことも可能。今後の活動を活性化するためにも部会の設置は必要かと思い、おはかりしたい。現在の活動状況では、従前の「学校評議員会」の活動の域を出ていないように思われる。今後の学校活性化のために、いかがなものか。

校長より：学校評価部会と学校設置部会の性格の違いについての確認

A 委員：学校評価部会の必要性については疑問がある。部会を設置するのであれば、学校設置部会のみでよいのでは。学校評価部会の設置には、負担が大きく伴うように思われる。

教頭より：この学校運営協議会の組織の中で、部会の設置が認められている。２つの部会を設置したら、委員の先生のなかで役割分担をするようなイメージを考えている。また、委員のおひとりおひとりにコーディネーターとしての役割を担っていただき、「学校設置部会」のもとで行事等を提案していただきたい。今回学園祭で PTA を中心とした「オヤジ焼きそば」に活躍していただいたが、同様な「おやじの会」というのは全国組織として多くの小中学校に置かれて全国組織もある。お祭りやイベントなどを実施している学校もある。こういったことに取り組んでいけば、地域との連携に繋がり、学校の活性化にもつながるかと思っています。

そもそもコミュニティスクールは、学校が主催するという性格のものではなく、学校と別の組織が学校を支援したり指導したりする立場であり、教育委員会との橋渡しにもなる大きな存在。以上をふまえての提案ですが、いかがでしょうか。

B 委員：「置くことができる」＝置かなくてもよいということだといえる。必要性があるかどうか、が大事。私たち委員の活動だけで十分であれば必要でない。部会を設置するのであれば、目的や意義を明確化すべきではないか。

教頭より：学校運営協議会自体が、現在の形でよいのかとこれまで悩んできた。せっかくこのような協議会の場が設けられているのであれば生かしていきたいと考えている。

事務長：第 7 条にある報酬について。部会を設置すれば、当然報酬が伴う。先行している 2 校は部会無し。本校でも本年度に関しては、予算の確保が非常に困難であることを先ほど県教委と確認した。議論として、部会の設置について話し合うことには価値があると考えるが、今年度すぐの設置は、予算執行の関係上不可能であると思われる。

会長：学校評価については委員全員で取り組むという今まで通りで良いのでは。学校設置部会は内容次第で必要か。

B 委員：関係性の相関図のようなものが必要。たたき台のようなもの（こういう役割を部会に担ってもらって、このような発展を目指したい）がないと、検討のしようがない。

教頭より：学校によっては、教員は事務局のような立場をとっているところもある。学校運営協議会は、あくまでも学校の「外」の組織。学校に物申すことができる力がある。

B 委員：事務局としての考え方が、「設置したほうが良い」ということであれば、それぞれの役割を明確化したうえで提案をしてほしい。今の状況では、案を出すこと自体なかなか難しい。

校長より：今日の話は、「部会ありき」ではない。実際、身延高や吉田高は部会がない。ただ、このままの状況では、学校評議員会と大差がないので、「白根らしい」組織づくりが必要ではないかとも考える。予算の確保が難しいところだが、そこは運営のやり方次第でなんとかする。

C 委員：部会が立ち上がった際は、我々は重複するのか。

教頭より：運営協議会の中の部会、というイメージなので、重複する方も出てくると思う。

県が設置した要項には予算の裏付けがないとさきほど確認しましたが。

C 委員：報酬のために参加する人はほとんどいないと思われる。いろいろな方が関わればいろいろな考えが出てくるので必要かとも思うが、一方、部会を設置することの労力も無視できない。学校や地域のためになるのであれば、必要かとも思う。

会長：皆さんを主体に考えながら、次回にまた、たたき台を提案する方向で継続審議でどうか。

② 令和４年度学校評価について（資料Ｐ１５参照）

年度末にお願いする「学校改善点検シート」のアンケート項目について、検討をお願いしたい。

C 委員：良いと思う

A 委員：昨年と変わった点はあるか

教頭より：変えた点はない。昨年、「評価が難しい」という意見もあったので、ここで検討いただければと思い提案した。良ければ、学校にたくさん関わっていただいてこの項目で学校評価をお願いしたい。

→承認

③意見交換・懇談

D 委員：あらためて「部会」というと難しいものになるが、たとえばＢ委員のホッケー指導、Ｃ委員のロータリークラブなども、ある意味で部会の形といえる。形にとらわれずに柔軟に考えても良いのでは。

A 委員：学校の教育活動(部活動)を外部に任せるようなニュースが最近話題だが、そういったことが進んでいるのか。

校長より：新聞で話題になっているのは中学校が中心かと。最近悩んでいるのが、「働き方改革」。教育委員会からも取り組みを促されている。部活動の外部指導者に関しては、本校では外部講師を１４名、本校独自の予算の中で招いている。しかしその中でも指導状況には温度差があり、平日＝教員、休日＝外部と割り切って実施することは難しい。土日の勤務を教員に依頼しつつ、教職員の時間外勤務を８０時間に抑えてもらうのがなかなか困難。

E 委員：学園祭の２日目に学校運営協議会委員として顔を出した。たくさんのＰＴＡの役員がオヤジ焼きそばに関わってくれていた。保護者の方々も、学校に関わりたいという思いを持っていることを感じた。「卒業したら終わり」ではもったいないほど、素晴らしい保護者が多い。引き続き、そういった保護者に関わっていただく意味でも、部会という組織づくりは有効かもしれない。同窓会としても何か考えていきたい。学園祭中の生徒たちは、大変生き生きしていた。

F 委員：部活動指導を外部に委託した場合、万が一（命に係わるような）事故が起こったら誰が責任をとるのか。県教委なのか、知事なのか。私立の場合は理事長が責任をとるが、公立の場合は誰がとるのか。
例えば運動中の事故などを考えると、部活動指導を外部の方々へ委託することはやはり難しいのでは。最近、教員の仕事はブラックだと言われているなか、教育調整手当４パーセントですべてお任せで、時間外勤務８０時間に抑えるという先生方には苦労いただいている。

校長より：８０時間は過労死ラインで最大の数。通常は４５時間。ただ、月平日２時間残業すれば、それだけで４０時間を超えるため、土日の部活動時間にまわせないことになってしまうのが現状。

会長：月に１回、１９時半～２１時頃まで、同窓会を行っているが、必ず職員室は明るい。校長室もよく明かりがついている。

E 委員：サッカー部の外部コーチの関わり方はどうなっているか。サッカー部はインスタもよくあげているので興味深い。

教務主任：朝練、土日の練習に指導をお願いしている。講師の方は若い方。昨年まで東京で指導していた方。

B 委員：ホッケー部の指導は土日３～４時間行くようにしている。私は外部指導者として講習を受けて資格を取得している。各スポーツで共通のものとホッケー専門のものとそれぞれ数日間講習と試験を受けて引率資格も取っている。そういった責任のもとで、選手の体調をみながら指導をしていくが、競技力の向上を考えると、それなりに負荷をかけた練習も必要になってくる。当然事故の危険も伴うが、その対処法も含めてトータル的に指導をしている現状。

４　諸連絡 今後の予定（資料表紙参照）

５　閉会のことば（教頭）

令和４年度 山梨県立白根高等学校

第４回 学校運営協議会 議事録

日時：令和５年２月１４日（火）１５：１５～１６：４５　本校白朋館ホール

１　開会のことば（教頭）

・配布資料確認（五味委員、北村委員欠席）

２　校長あいさつ

本校の教育活動へのご協力、まことにありがとうございます。本日は実質３回目の協議会となりますが、本年度は今回で最後となります。

学校評価アンケートへのご意見、ありがとうございました。皆様が資料によく目を通していただいて、本校の実態をご理解いただいていることを感じました。

新型コロナの影響は相変わらずですが、５月には取扱いが「５類」に変わります。とはいえ対応を厳しくすることは簡単であっても、緩和することはなかなか難しい面があります。前回の協議会以降の状況をお話しいたします。生徒は若干の移動があるなかで、全校３７６名。来年の定数も１３０人名と、定員に変化はありません。

今年度は教育活動を極力停めないことを目標にしてきましたが、インターンシップについては苦渋の決断の中で見送ることとなりました。今の２年生は昨年度スキー・スノーボード教室もキャンセルになってしまったこともあり、修学旅行は是が非でもという思いを持っておりました。夏休み、ウエイト部がインターハイ団体５位、望月選手は個人で優勝、国体でも１位という快挙を成し遂げました。また学校説明会、オープンスクール、スクールツアーと、今年度は学校を紹介する行事はすべて実施することができました。体育祭も実施され、委員様にも見学にいらしていただけました。１０月３１日には、３９周年記念式典とアフリカ音楽の芸術鑑賞会が実施されました。有志の生徒や若い先生の飛び入り参加もあり盛り上がりました。１１月、修学旅行で沖縄へ行きました。生徒は大変喜んでおりました。平和学習のなかで戦時中の話を伺いました。また１年生はフィールド・デイに参加してきました。桂原様を通じてこの計画を進めさせていただき、事前の学習会にかかった費用やバス代も市の支援をいただくことができました。PTA 行事としては、クリスマスケーキ教室、そして金丸様に中心になっていただいたペンキ塗りが行われ、駐輪場が綺麗になりました。

３年生の状況については、今年度の皆勤賞は２５名。コロナ禍ではありますが、５人に１人が皆勤賞をもらえそうです。進路実績も順調です。現在は学校をあげて、国公立大学や私学の一般入試に向けて努力している生徒の支援をしているところです。先週、スキー・スノーボード教室が実施されました。生徒は大変満喫した様子でしたが、大雪により道路網が麻痺、帰りは５時間２０分かかりました。

この２年間、教育の ICT 環境が大きく前進しました。本年度１年生から BYOD を取り入れ、また全生徒が Classi というアプリを学習ツールとして利用しています。先生方に対しては ICT 支援員を中心にたびたび研修会を行っているが、まだまだな面もあるのが現状です。

この１年間、貴重なご意見、ご尽力をありがとうございました。本日も来年度に向けて、貴重なご意見をいただければ幸いです。

３　教育活動報告（学校側説明）

1　学習支援グループ（資料Ｐ１参照）　本年度１年生は、県外の生徒はいない。

2　生徒支援グループ（資料Ｐ１～２参照）　県内でも有名なスクールカウンセラーの先生に来ていただいている。

3　進路支援グループ（資料 P2～３参照）

進路内定者について。国公立大学５名、私立大学４６名、短大は例年より少なく７名、専門学校４９名。ヴァンフォーレの生徒が有名大学に進学している。

4　学校管理グループ（資料 P4 参照）

就学支援金はほとんどの生徒が受給している。就学給付金は例年１０名程度だったが、一昨年、昨年と３０名程度に上っている。経済的に厳しい状況が伺える。昨年学校設備の老朽化をご指摘いただいたが、なんとか予算を確保して様々な改善に取り組んでいる。

5　生徒指導グループ（資料 P5 参照）

今年度の状況について。交通事故は昨年度並み、問題行動については増加。防災避難訓練については、教頭が担当していたが、コロナの影響で地域との交流ができず中止。来年度以降の活動に持ち越したい。

6　情報管理グループ（資料 P5 参照）

特にホームページは充実している。県内だけでなく県外からもアクセスがある。

４　＜議事＞ 議長：川野会長

①学校評価アンケートおよび山梨県立学校評価システムについて

（資料Ｐ９～１７参照）

Ｐ９学校評価システムについて、県立学校はすべてこのシステムに則って評価をしなければならない。そこで委員様にシートによる学校評価をお願いしている。（結果はＰ１１参照）学校経営については「達成できた」という回答がほとんど。教科指導については、家庭学習に関する項目の評価が厳しい。生徒指導については、ほぼ「達成できた」評価をいただいたが、地域における活動への参加については評価が分かれている。特別活動については良い評価をいただいている。学年関係・図書・進路関係についても高い評価をいただいている。その他ご意見として、生徒・教職員に人間としての軸ができているというご意見をいただいた。またアンケートのなされた方について、評価の基準（数値）が必要ではないかというご意見もいただいた。Ｐ１２以降は記述方式での回答をまとめたもの。
「領域名１ 学校の基本的な目標・方針の設定に関する領域」委員の皆様には高評価をいただけた。
「領域名２ 学校評価に関する領域」アンケート結果をふまえて、各会議や職員会議において共通理解を図った。
「領域名３ 地域との連携協力に関する領域」インターンシップが中止になったことは残念だが、初めての活動であるフィールド・デイが実施できた。
「領域名４ 教育課程に関する領域」生徒の実態に合わせて、よりより教育活動を行っていきたい。
「領域名５ 生徒指導・進路指導に関する領域」挨拶のすばらしさをおほめいただけている反面、ここ数年は挨拶ができなくなってきているのではないかと感じられる部分もある。
「領域名６ その他の領域」

最後のとじ込みページについて、委員の先生方に外部評価をいただきたい。一言ずつでかまわないので、ご意見をいただけたらありがたいです。資料を切り取って手書きで入れていただくか、メールでの回答も可能です。

②来年度の活動計画について（資料Ｐ１８参照）

１年生は地域を知る活動と住み続けられる町づくりについて。新しい取り組みとしての「観光甲子園」への参加も検討中。２年がかりでの参加を考えている。修学旅行の行先としてSDGｓの目標達成と絡めながら、市の方にも支援をいただいての活動を予定している。２年生はインターンシップを中心とした体験・発表学習。３年生は進路学習。

A委員：フィールド・デイは継続を。発掘調査は難しいかもしれないが、エコパでの野外活動は重要。私も当日行って見てきたが、大変良い体験だった。観光甲子園については校長先生と詳しく詰めていきたい。市として観光政策には力を入れていきたいところ（シティプロモーション推進）なので、若い世代が情報発信するような取り組みは歓迎したい。市への来訪者の満足度を上げるために、高校生の力を借りたい。ぜひ具体化をお願いしたい。自分自身もできるだけバックアップしていきたい。

B委員：山梨大学で、地域に埋もれている様々なものを見つけ出して、地域のPRに使っていくような活動をしている。そういった活動との繋がりも必要ではないかと思われる。

→「案」を承認

③その他

別紙資料参照。地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの関係について。前回の会議で、コミュニティ・スクールの活性化について提案したが、予算の有無が問題になった。学校運営協議会以外に、地域の方や保護者を交えた地域学校協働本部を立ち上げるのか否かを検討していきたい。吉田高校は来年から動くとの情報もある。

A委員：「設置する」ことを誰が決めるのか。吉田高校はどのような過程で設置することになったのか知りたい。PTAからの声なのか、学校側が主体的に動いたのか、県からの指示なのか。

教頭：学校主体というよりは、地域からの声や県教委からの声かけが大きいと思われる。
議長：吉田高校では具体的にどのようなことをするのか。

教頭：総合的な探究の時間を使って、地域との関わりを持っている。富士吉田市の商工会議所と連携の協定を結んでいるようだ。

C 委員：かつて小中学校で「学校応援団」が立ち上がった時期があった。

D 委員：小中学校でもコミュニティ・スクールが入ってきている。町と学校の協働活動についていくつか課題を設けて取り組んでいる。

C 委員：コミュニティ・スクールが忙しいことで、学校の負担になってはよくない。現状あるものを新しい視点で見直すことが必要ではないか。「学校応援団」の組織も文科省のお声がかりによるものだった。大変な苦労を伴いながら新しい組織をつくらなければならないのは相当な負担になることが予想される。そうならないように、実りある組織を考える必要があるのではないか。本校には古くからインターンシップがある。こういった活動を新しい視点で見直していくことも必要ではないか。負担にならずに楽しくやっていけるような
コミュニティ・スクール、地域学校協働活動にしていく必要があるのでは。

議長：企業でもいまＳＤＧｓが求められている。しかし中小企業には難しい話で、むしろ生徒のほうが詳しい。生徒と繋がることで企業にとってもプラスになる面がある。

A 委員：組織をつくる利点もあるが、硬直化するきらいもある。今すでに繋がっている部分もあるので、そこから学校と地域との連携を進めていければよい。組織化にこだわらなくても、今取り組んでいる部分を深化させていければ良いのでは。ネットワークを活用していけば、自然と組織図のような形になっていくのではないだろうか。

校長：来週の水曜（２２日）に、１年生が職業人講話に参加する。その際も市には人材の紹介という点で大変お世話になっている。南アルプス市のガイドブックを今年も協働で作る（今年はパン屋さん特集）が、そこでも市の支援をいただいている。表立って見えない部分ではあるが、すでに市との連携はなされている。皆様の意見を聞くかぎり、組織化にこだわらなくても良いのではと思っている。

５ 意見交換・懇談

E 委員：保護者の立場から話したい。進路支援について、合格者の受験形態は総合・推薦型が９５％を占めている。こういった形態にさらに深く対応していけるように、外部の指導を入れても良いのでは。

F 委員：来校する機会も多く、部活動の様子などよく見せてもらっている。今の３年生は男女比のバランスが良いが、１・２年生は女子が多い。そのためか、部活動にあまり元気がない気がする。運動部の男子たちが盛り上げていくような元気さがほしい。女子が増えているということは、女子が活動できるような部を考えていく必要があるし、また男子を呼べるような特色づくりも必要ではないか。なるべく男子が魅力を感じるような学校づくりをお願いしたい。

D 委員：協議会の委員なので責任をもって取り組みたいと思っていたが、なかなか携われない場面もあった。今回フィールド・デイの活動を知ったが、こういった活動の大切さを実感することができた。コミュニティ・スクールの活動が学校の疲弊に繋がらないように、先生たちが行っていたことを地域の人たちが担う・地域の教育力を上げていけるような活動にしていければ良いのではないか。

B 委員：久しぶりの授業参観だったが、だいぶＩＴ化が進んだことを感じた。理系に女子は少なかったが、いわゆる「リケジョ」も必要とされるのではないか。白根高校は規模の小さい学校だが、地域との連携がキーワードになってくる。コミュニティ・スクールにはいろいろな形態があって良い。「連携」というのを一つの核として広げていけば、地域とともに歩むイメージが広がる。協力してもらえる人材を増やして、もっとイメージを広げていけると良い。

議長：来年度の役員はどのようになるか

校長：以前の組織（学校評議委員）には任期があったが、現委員には任期がない。来年度の活動が厳しい方はお知らせください。

教頭：新年度に改めて申請をする必要があるが、引き続きお願いできれば大変ありがたい。

６　諸連絡

本日の会議の結果をふまえ、学校教育目標が達成できたかどうか、評価およびご意見をお願いいたします。来年度４月（３週目？）に第１回の協議会を開催する予定です。学園祭期間中の協議会開催は難しく、学園祭には参加をいただくということで、来年度は３回の協議会を予定。（４月・１０月・２月）

校長：来季については、可能な限りご協力をいただけたらありがたい。委員の皆様は本校のことを本当にご理解いただいている。本校の活動は大学との繋がりが弱い部分があるので、今後考えていきたい。

７　閉会のことば（教頭）